

地域史料通信

第6号

2014. 10

御蔵式百式拾番
遠州欠(掛)塚卯助船
沖舟頭 幸助
濃州土岐郡笠原村
上乗 孫右衛門

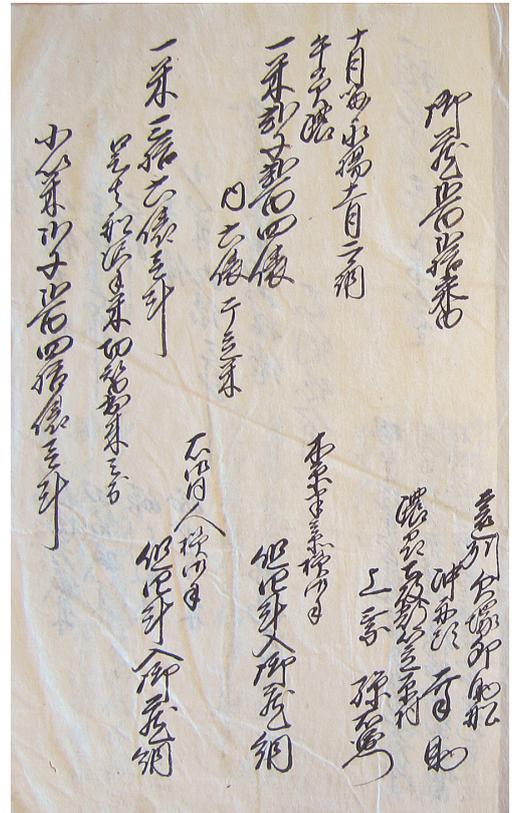
十月晦日水揚十一月二日納
午美濃
一米式千式百四俵
内六俵干立米
木原半兵衛様御手
但四斗入御蔵納

一米三拾六俵壹斗
是者船沢手米切替出来之分
右御同人様御手
但四斗入御蔵納

小以米式千式百四拾俵壹斗
(中略)

合米式千式百五拾俵
水揚高

合米式千式百五拾俵
水揚高



(岐阜大学教育学部郷土博物館所蔵 美濃国方県郡河渡村村木家文書に 11、以下、特に所蔵を明記していない史料は、教育学部郷土博物館所蔵のもので、教育学部郷土博物館は「博物館」と記載します)

上の古文書は、天保5年(1834)の「美濃国当年御年貢米御蔵納諸入用帳」という書類の一部分です。美濃国に所在した江戸幕府の直轄地(以下、幕領と記載)の村々の年貢米は、江戸浅草の御蔵に納められました。はじめに御蔵の番号があり、年貢米を輸送した遠州掛塚(静岡県磐田市)の廻船船主や沖船頭、廻船内での年貢米の責任者であった上乗の名前が確認できます。その後、水揚げされた年貢米の数量なども列記されていきますが、美濃国の年貢米は、どのように江戸まで輸送されていたのでしょうか?

詳細は3ページから

目次

岐阜県師範学校関係資料／地域資料・情報センターの刊行物	2
年貢米を運ぶ—美濃国幕領の廻米輸送を中心に—	3
交流コラム／地域資料・情報センターの活動／編集後記	7
大災害時の地域歴史資料保全—地域に生きる一人一人の記憶を継承するために—	8

岐阜県師範学校関係資料

岐阜大学教育学部郷土博物館（第2収蔵室）には、教育学部の前身校の岐阜県師範学校や岐阜県女子師範学校に関する記録資料も、少なからず残されております（『岐阜大学教育学部郷土博物館収蔵史料目録(4)未報告諸資料・博物館関係資料目録』参照）。当館の始まりとされる昭和6年(1931)に設置された「郷土室」で収集された各資料（図書、絵図、拓本、写真、古文書など）や、『学友会雑誌』『沓井』、『香蘭会誌』といった師範学校や女子師範学校で作られた雑誌などもあります。これらは、教育学部の歴史を知る上で大切な記録資料です。多くの方々に活用してもらえよう、資料のデジタル化など、様々な資料活用方法を検討していきたいと考えております。また、皆様からのご意見・ご要望などがありましたら、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



左上：岐阜県師範学校
(加納校舎、正面より)

右上：1909年皇太子
殿下奉送迎記念撮影
(岐阜県師範学校女子
部集合写真)

左下：岐阜県女子師範
学校編『香蘭会誌』
(1916～1926・1928・
1931・1932・1936・
1937年発行)

右下：岐阜県天然記念
物写真帳（根尾谷薄墨
桜）

地域資料・情報センターの刊行物

- | |
|---|
| ○ 『岐阜大学教育学部郷土博物館収蔵史料目録 (1) 美濃国方県郡河渡村 村木家文書目録』 |
| ○ 『岐阜大学教育学部郷土博物館収蔵史料目録 (2) 美濃国方県郡木田村 山田家文書目録』 |
| ○ 『岐阜大学教育学部郷土博物館収蔵史料目録 (3) 美濃国武儀郡下有知村 山田家文書目録』 |
| ○ 『岐阜大学教育学部郷土博物館収蔵史料目録 (4) 未報告諸資料・博物館関係資料目録』 |
| ○ 『岐阜大学教育学部郷土博物館収蔵史料目録 (5) 美濃国安八郡浅草東村大橋家文書・美濃国石津郡乙坂村文書目録』 |
| ○ 『岐阜大学教育学部郷土博物館収蔵史料目録 (6) 美濃国本巣郡長屋村 長屋家文書目録』 |
| ○ 『岐阜大学教育学部郷土博物館収蔵史料目録別冊 (1) 岐阜大学教育学部郷土博物館収蔵 村絵図』 |
| ○ 『岐阜大学地域科学部地域資料・情報センター 地域史料通信』 創刊号～第6号 |

※冊子での閲覧 … 岐阜県図書館、県内・近隣の主要公立図書館など、全国の大学の日本史研究室など

※ネットでの閲覧 … 岐阜大学機関リポジトリ (<http://repository.lib.gifu-u.ac.jp/>)、岐阜大学図書館からリンクしています)

岐阜大学地域資料・情報センター HP (<http://rilc.forest.gifu-u.ac.jp/>)

年貢米を運ぶ—美濃国幕領の廻米輸送を中心に—

美濃国幕領の廻米

江戸時代、幕府の経済基盤は年貢米であり、幕領の年貢米は、江戸や大坂へ送られていました。これを廻米（御城米）と呼びます。

美濃国幕領の石高は、寛政年間には19万4千石余で、幕領の村々の郷蔵に納められた年貢米は、人馬で近くの川岸まで運ばれ（津出し）、船で伊勢国桑名（三重県桑名市）へ輸送されました（川下げ）。桑名から、伊勢国の幕領の年貢米も一緒に廻船に積み込まれ、江戸へ送られました。この廻米輸送の担当者として、村々から納庄屋と上乘が任命されます。納庄屋は江戸における年貢米納入の、上乘は廻船内での責任者でした（『岐阜県史 近世上』pp.840～847）。

桑名への輸送

博物館収蔵の美濃国方県郡河渡村村木家文書には、天保5年（1834）の廻米に関わる史料が残されています。この年の納庄屋の一人が、方県郡河渡村（岐阜市）の村木忠兵衛で、その関係史料が忠兵衛の家に伝えられたからです。もう一人の納庄屋は、可児郡長瀬村（多治見市）の若尾与藤次であり、彼は弘化4年（1847）にも納庄屋を勤めています（『多治見市史 通史編上』pp.559～566）。

河渡村は長良川右岸に立地し、中山道の宿場で渡船場もありました。文化12年（1815）の河渡村の明細帳には「御城米取立、右郷蔵入置申候、御下知次第津出し仕、当村渡場より川舟積、桑名十里川下ヶ仕候」（「美濃国方県郡河渡村明細帳」明治期岐阜県庁事務文書、岐阜県歴史資料館所蔵）と記されています。命令が出され次第、その渡船場から「御城米」（廻米）を川舟に積み桑名へ運んでいたようです。

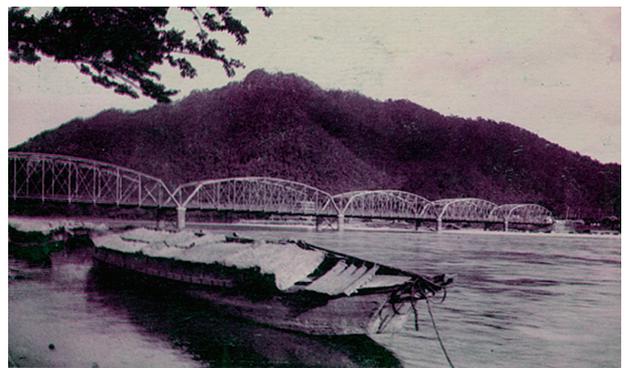
各村々から桑名へ向けて廻米を運ぶ途中、思

わぬ事故にみまわれることもありました。天保5年（1834）、武儀郡下有知村（関市）の年貢米を川舟に積み長良川を下っていた所、本巢郡前野村（瑞穂市）近くで川舟が壊れて「御城米」（廻米）42俵が水に濡れ、江戸へ輸送可能な状態では無くなったため、村へ戻ろうとした事もあります（下有知村山田家文書に74、に75）。

桑名から出帆する廻米船

桑名に運ばれた廻米は、空船が桑名に入港次第、積み込まれ江戸へ送られました。村木忠兵衛と若尾与藤次が納庄屋として関わった廻米船として22艘が確認できます。その概要を次頁にまとめました。以下に、表からわかることをみていきます。何番船とは、桑名からの出帆順と考えられます。一覧表のい・こ・つ、お・せ、さ・なの廻米船は、船主・沖船頭が同一で、積載石数も同じような数量であり、同じ船が往復していたとも思われます。

船主を地域別にみると、10艘が掛塚（静岡県磐田市）、4艘が沼津（静岡県沼津市）、川崎・相良（ともに静岡県牧之原市）・戸田（静岡県沼津市）が各2艘、江戸鉄砲洲（東京都中央区）・下田（静岡県下田市）が各1艘でした（p.6、図の●の地点）。船主として半分弱を占める掛塚は、天竜川の河口に位置し、天竜川を川下げされた御用材や、近隣の廻米輸送に携わっていました。



長良川の川舟（絵はがき、岐阜市歴史博物館所蔵）

天保5年（1834）の美濃・伊勢国の廻米船

	桑名 出帆順	船主	沖船頭	乗組 (船齡)	米〈1俵4斗入〉：納入郡	御膳粉 〈1俵5斗入〉	納菰 御用紙
あ	(1～8 番船カ)	遠州掛塚 卯助	幸助		900石〈2250俵〉		
い		駿州沼津 与兵衛	惣五郎		680石〈1700俵〉		
う		駿州沼津 与兵衛	増右衛門		700石〈1750俵〉		
え		遠州川崎 八郎兵衛	庄右衛門		1050石〈2625俵〉		
お		遠州相良直乗 五郎左衛門	五郎左衛門		1080石〈2700俵〉		
か		豆州戸田直船 船頭勇助	(勇助)		1180石〈2950俵〉		
き		遠州川崎 伊兵衛	豊左衛門		452石〈1130俵〉	60石 〈120俵〉	
く		江戸鉄砲洲 定之助	善助		660石〈1650俵〉	50石 〈100俵〉	
け	9番船	豆州下田 伝七	竹蔵	8人 (5年)	700石〈1750俵〉：山県・海西・安八・武儀・ 中島・土岐・可児郡	125石 〈250俵〉	菰160枚 紙8箇
こ	10番船	駿州沼津 与兵衛	惣五郎	7人 (5年)	628石〈1570俵〉：武儀・山県・加茂・土岐・ 可児郡	65石 〈130俵〉	菰136枚 紙16箇
さ	11番船	遠州掛塚 丈左衛門	与助	14人 (5年)	1288石〈3220俵〉：各務・羽栗・海西・中島・ 方県・土岐・可児郡	240石 〈480俵〉	菰296枚 紙8箇
し	12番船	豆州戸田 兵四郎	善右衛門	10人 (5年)	1040石〈2600俵〉：方県・海西・多芸・羽栗・ 土岐・可児郡	200石 〈400俵〉	菰240枚 紙16箇
す	13番船	遠州掛塚 丈左衛門	七左衛門	13人 (5年)	1233石6斗〈3084俵〉：山県・武儀・海西・ 中島・多芸・方県・各務・土岐・可児郡	210石 〈420俵〉	菰280枚 紙6箇
せ	14番船	遠州相良直乗 五郎左衛門	(五郎左衛門)	12人	910石〈2275俵〉：山県・多芸・方県・各務・ 中島・武儀・土岐・可児郡	175石 〈350俵〉	菰210枚 紙8箇
そ	15番船	遠州掛塚 長兵衛	権七	17人 (6年)	1760石〈4400俵〉：武儀・中島・方県・各務・ 海西・土岐・可児郡	300石 〈600俵〉	菰400枚 紙16箇
た	16番船	遠州掛塚 八右衛門	亀五郎			175石 〈350俵〉	
ち	17番船	遠州掛塚 善左衛門	庄平	6人 (5年)	510石〈1275俵〉：方県・武儀・羽栗・可児・ 土岐郡	75石 〈150俵〉	菰114枚 紙8箇
つ	(18番 船カ)	駿州沼津 与兵衛	惣五郎		644石〈1610俵〉	50石 〈100俵〉	菰136枚
て	(19番 船カ)	遠州掛塚 長兵衛	喜助	8人	788石〈1970俵〉：山県・羽栗郡	140石 〈280俵〉	菰180枚 紙8箇
と	20番船	遠州掛塚 七郎右衛門	六兵衛	12人 (5年)	1090石〈2725俵〉：羽栗・中島・山県・武儀・ 各務・土岐・可児郡	200石 〈400俵〉	菰250枚 紙8箇
な	21番船	遠州掛塚 丈左衛門	与助	14人 (6年)	1285石6斗〈3214俵〉：山県・武儀・加茂・ 各務・羽栗・土岐・可児郡	243石 〈486俵〉	菰296枚 紙8箇
に	22番船	遠州掛塚 丈左衛門	七五郎	9人 (5年)	871石6斗6升1合2勺〈2179俵6升1合 2勺〉：羽栗・中島・海西・安八・多芸・武儀・ 山県・各務・方県・加茂・土岐・可児郡	9石 〈18俵〉・ 御廻粉77石 〈154俵〉	菰187枚 紙16箇

上 乗	桑名 出帆	経 路 (入津日・出帆日・寄港地)	品川 入津	水揚げ (御蔵)	納日
濃州土岐郡笠原村 (多治見市) 孫右衛門				10/ 晦 (220番)	11/ 2
濃州山県郡西深瀬村 (山県市) 五代吉				11/ 8 (260番)	11/12
濃州山県郡千疋村 (関市) 治右衛門				11/ 9 (220番・216番)	11/13
濃州武儀郡極楽寺村 (美濃市) 繁蔵				11/14 (260番・263番)	11/18
濃州加茂郡鑄物師屋村 (関市) 安蔵				11/17 (169番)	11/20
濃州可児郡坂戸村 (可児市) 嘉吉				11/29 (169・173番)	12/ 5
濃州羽栗郡若宮地村 (岐南町) 太市郎				12/ 3 (194番)	12/ 5
濃州土岐郡小田村 (瑞浪市) 惣七				12/10 (216・210番)	12/14
濃州方県郡則武村 (岐阜市) 伊代蔵	11/27	12/ 3 小浜入津・12/ 5 出帆→12/ 6 長豆呂入津・12/10出帆・ 12/10外浦入津・12/12出帆→12/13浦賀入津	12/16	12/24 (210番・213番)	12/28
濃州武儀郡下有知村 (関市) 惣十郎	11/27	12/ 2 小浜入津・12/ 5 出帆→12/ 6 田子浦入津・12/ 7 出帆 →12/10下田入津・12/11出帆→12/ 8 浦賀入津・同日出帆	12/14		
濃州山県郡梅原村 (山県市) 勘左衛門	12/ 9	12/11 鳥羽浦入津・12/13出帆→12/14須崎入津・12/15・16* 出帆→12/17網代入津・12/18・19・20*出帆→12/23浦賀入津	12/25	1 /10 (111番)	1 /14
濃州各務郡岩田村 (岐阜市) 九右衛門	12/10	12/13浦賀入津・同日出帆	12/14	12/16 (210番)	12/21
濃州多芸郡有尾村 (養老町) 常蔵	12/23	12/28小浜入津・1 / 2 出帆→1 / 4 浦賀入津	1 / 7	1 /14 (本所47・41番)	1 /19
濃州中島郡中村 (羽島市) 吉右衛門	12/23	12/ 晦須崎入津・1 / 4 出帆→1 / 7 浦賀入津	1 /11	1 /18 (213番・207番)	1 /23
濃州山県郡北野村 (岐阜市) 市郎左衛門	12/28	1 / 5 小浜入津・1 /15出帆→1 /15網代入津・1 /19出帆 →1 /20浦賀入津・1 /22出帆	1 /23	1 /28 (207番・201番)	2 / 2
勢州桑名郡加稻新田 (愛知県弥富市) 年寄 佐次兵衛	1 / 8		1 /29		
濃州安八郡勝村 (海津市) 丈太郎	1 / 8	1 /10小浜入津・1 /15出帆→1 /17須崎入津・1 /18出帆 →1 /19外浦入津・1 /25出帆→1 /26浦賀入津・同日出帆	1 /29	2 / 4 (本所47番)	2 / 7
勢州桑名郡松蔭新田 (三重県長島町) 源七	1 /22		2 / 8		
濃州土岐郡高山村 (土岐市) 源六	1 /25	2 / 3 小浜入津・2 / 5 出帆→2 / 6 長津呂入津・2 / 7 出帆 →2 / 9 浦賀	2 /11	2 /23 (263番)	2 /29
濃州可児郡前波村 (可児市) 太兵衛	2 / 6	2 / 7 小浜入津・2 /12出帆→2 /13浦賀入津・2 /14出帆	2 /15	2 / 晦 (212番)	3 / 5
濃州各務郡古市場村 (各務原市) 勝蔵	2 / 8	2 /10鳥羽入津・2 /13出帆→2 /17浦賀入津・同日出帆	2 /17		
濃州土岐郡小里村 (瑞浪市) 喜七	2 / 8	2 / 9 小浜入津・2 /12出帆→2 /13浦賀入津・同日出帆	2 /15	3 / 2 (33番)	3 / 8

(* 出帆日の複数記載は、悪天候による滞船か、出戻りと考えられる)
(美濃国方県郡河渡村村木家文書に9～に27・ち1より作成)

御用材輸送の減少に伴い、美濃や伊勢国の廻米輸送に関わるようになっていったと考えられています（『竜洋町史 通史編』 pp.120～133）。天保5年（1834）の美濃国・伊勢国の廻米船の手配には、桑名の敦賀屋庄右衛門と掛塚（静岡県磐田市）の高塚屋伊左衛門が関わっていました（河渡村村木家文書ろ72）。彼らが、志摩・伊勢・三河・遠江・駿河・伊豆・相模・武蔵国の廻船問屋・船持ちへ触れを出し、廻米船を雇っていたのです（村瀬正章『伊勢湾海運・流通史の研究』 pp.63～77）。

廻米船には沖船頭・水主・炊以外に、上乘と呼ばれた美濃・伊勢国から選ばれた百姓も乗船しました。一覧表からは、美濃国20人、伊勢国2人の上乘の名前が確認できます。彼らの仕事は、船中にて廻米が濡れないよう大切に扱うことや、船頭や水主らの不法な行為（廻米の海中投棄など）がないか監視することでした。

美濃国では、廻船1艘あたりの廻米の積高は平均800石（2千俵）でした（河渡村村木家文書ろ72）。天保5年の場合、御膳粉（将軍や大奥などの飯米に使用）も含めると、半分以上は800石以上の積載量で、千石積以上は10艘もありました。また、美濃国の廻米船には、年貢米・御膳粉のほかに、御用紙（美濃紙）も積まれて

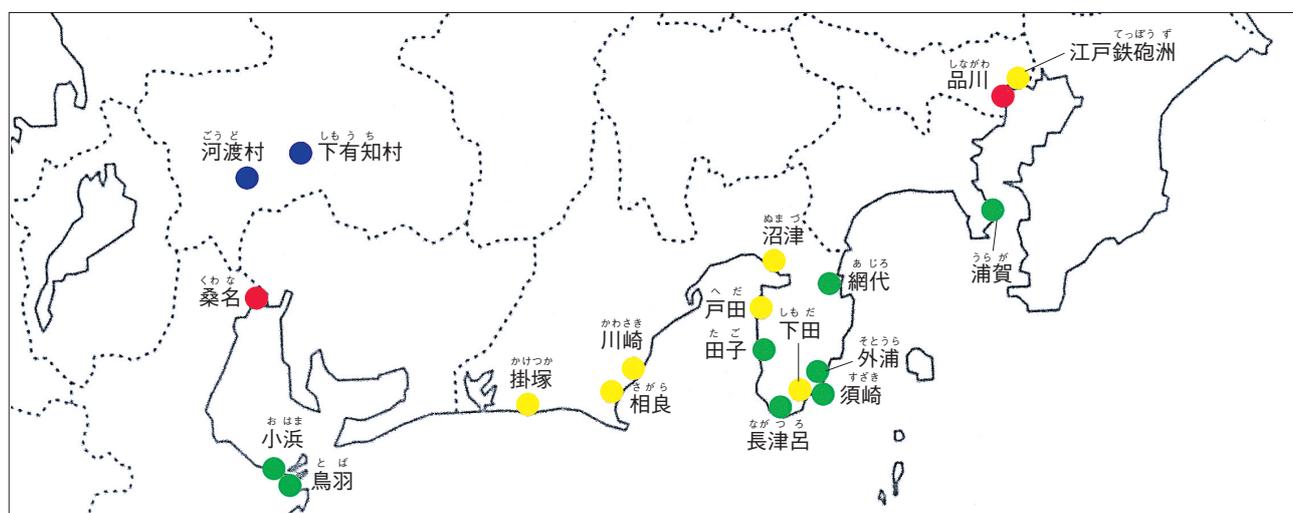
いました。

船齢が確認できる場合、5年か6年のものがほとんどです。廻米船は、造船後7年以内の船を使用することが決められていました。廻船の建材は不明ですが、判明する限り15番船は、楠・檜材で造られていたようです（河渡村村木家文書ち1）。幕末期には、度重なる地震・津波などの災害により、これらの地域の廻船も被害を受け、廻米船の手配が難しくなりました。そのため廻米船の手配者による新船の建造などがみられるようになります。（慶応3年「美濃郡代引継演説書」美濃郡代笠松陣屋堤方役所文書、岐阜県歴史資料館所蔵）。

天保5年の廻米船の経路

桑名を出帆、品川（東京都品川区）に到着した月日が確認できるのは（図の●の地点）、9番船から22番船までの14例で、そのうち経路が確認できたのは12例でした。□の12番船が一番最短で5日、○の15番船は26日かかって品川に到着しました。平均すると、約15.8日間の日数がかかったようです。

基本的には、桑名を出帆後、最初に志摩国小浜か、鳥羽（ともに三重県鳥羽市）へ入津することがほとんどで、そこから浦賀（神奈川県横須賀市）までの経路は、その時々



天保5年（1834）廻米船の船主分布、入津地図
 （船主●、入津地●<下田のみ●>、桑名と品川は●、美濃国方県郡河渡村と武儀郡下有知村は●で表示）

よって左右されたと思われます。伊豆国^{いずのくに}田子^{たご}（静岡県西伊豆町）・長津呂^{ながつろ}（静岡県南伊豆町）・下田^{した}・須崎^{すざき}・外浦^{そとうら}（ともに静岡県下田市）・網代^{あじろ}（静岡県

県熱海市）などへ入津した場合、桑名・品川間の日数は、おおよそ16日以上かかりました（図の●の地点、但し下田のみ●）。

交流コラム～現場から～

《美濃市古文書同好会の活動について》

美濃市古文書同好会は、会員18名で、毎月1回中央公民館で活動しています。

その歴史は、昭和54年に編纂の『美濃市史』より古く、『美濃市史』を執筆された先生による成人向けの古文書読解講座としてはじまりました。指導者が交替されるなどして波がありましたが、その間に更に解読を進めるために古文書同好会が別に発足し、現在はそれと併行して公民館で古文書解読の時間を持っています。

現在ご指導いただいているのは、市内在住の古田憲司先生です。市内における古文書を発掘し、解読しています。最近の活動例として、今から6年程前に発見された「船公事御僉議之覚書」があります。2年程かけて解読し、市の協力を得て冊子となりました。他には、市内にある臨済宗の古刹である清泰寺文書を解読し、中核となっていた清泰寺と近隣の同じ宗派のお寺との関連について学習することができました。次に予定しているのは、市内^{わらび}蕨生に残る「片知村規程書」を読むことです。

講義の中で古田先生は、自分で体験された歴史的な事や新聞記事なども活用されて大変多角的にご指導いただいています。最近では織田信長の本能寺の変について石谷家文書の説明もしていただきました。

郷土の文書を使っただけの学習は、全て現在生きている私たち、美濃市につながるものばかりであり、今後一層学習を進めていこうと考えています。



美濃市古文書同好会の活動風景

※「交流コラム～現場から～」では、岐阜県に関わる史料の編纂・保存事業や史料展示などの情報を掲載していきます。皆様からの情報をお待ちしております。

地域資料・情報センターの活動

センターでは、岐阜県内の市町村の地誌や自治体史・行政資料や、個人出版の郷土研究・地域で刊行された郷土史などを収集し、珍しい資料については、随時HP上で内容紹介をしています。また、岐阜県内の水資源、特に長良川河口堰についての書籍・裁判資料・関係者から提供された資料などの収集・整理を時系列的に行い、整理が済み次第、HPに掲載しています。詳細は、HPをご覧ください（8ページ下段URL参照）。

編集後記

本号では、美濃市古文書同好会、神戸大学大学院人文学研究科の奥村弘先生から御寄稿を賜りました。また、岐阜県歴史資料館、岐阜市歴史博物館からも御協力いただきました。皆様本当に有難うございました。近年、災害が頻発しております。災害時における史料の保全対策について、常日頃から検討していくべきと考えています。課題は山積みですが、少しずつ出来ることから取り組んでいきたいと思っております。（中尾喜代美）

大災害時の地域歴史資料保全 —地域に生きる一人一人の記憶を継承するために—

神戸大学大学院人文学研究科教授 奥村 弘

東日本大震災以来、東北大学にある宮城資料ネット（NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワーク）の作業場を兼ねた事務局を訪ねることが多い。ここでは震災以来、津波によって傷み、泥まみれになった歴史資料を市民や学生が次々とクリーニングし、整理を進めている。これを見ていると、1995年の阪神・淡路大震災での私の経験を思い出す。この時、私は、若手の歴史研究者、大学院生、学芸員、アーキビストとともに被災地近辺で歴史資料保全に携わっていた。歴史関係者としてなにができるのか。それを考えながら、震災一月後にはじめたのが、歴史資料ネットワークの活動である。震災で命や暮らしが失われる中で、地域の歴史を失わず、次の世代に引き継ぐために歴史資料を保全しようと手探りで活動をはじめた。

大変な時期にもかかわらず、被災者の方々から、歴史資料の情報やねぎらいの言葉を頂くことが多く、被災史料を活かした講演会や展示会にも多くの方が集まった。神戸に生まれた歴史資料ネットワークは、市民からの支援を励みに、被災地での活動を続けた。さらに全国の地震災害や豪雨での歴史資料保全活動を支援し、気がつけば現在にいたっている。同様の組織も、全国の地方国立大学を中心に20以上になっている。さらに、神戸大学大学院人文学研究科では地域連携センターができ、この経験を日常の地域歴史文化の支援へといかしている。

私は、被災地の歴史を未来に引き継ぐためには、被災歴史資料保全と共に、大震災の実態を明らかにする震災資料も合わせて保全しなければならないと考えている。20年を経て、神戸では、体験のない世代が、資料を基礎に歴史として大震災の記憶を引き継ぐことが課題となっている。その中で、人と防災未来センター資料室、神戸大学附属図書館震災文庫、震災・まちのアーカイブ等に、多くの人々の努力で、市民やボランティアによる資料が残されたことが、大きな意味を持つようになっている。

東日本大震災では、津波地域を中心に、アルバムや位牌、様々な遺品を保存する活動が大規模に行われた。地域に生きる一人一人の記憶を大切に、それを過去から未来に引き継ぐための歴史資料の保全と活用についての地道な活動が全国に広がり始めている。



宮城資料ネットでの資料保全活動

参考文献

- 奥村弘編『歴史文化を大災害から守る—地域歴史資料学の構築』東京大学出版会、2014。
神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター編『「地域歴史遺産」の可能性』岩田書院、2013。

岐阜大学 地域科学部 地域資料・情報センター 地域史料通信 第6号

発行日 2014年10月31日 年1回刊行（予定）

編集・発行 岐阜大学 地域科学部 地域資料・情報センター

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1 Tel (058)293-2312 または 3323

Fax (058)293-3324 <http://rilc.forest.gifu-u.ac.jp/> E-mail: archives@gifu-u.ac.jp